

日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会雑誌

The Japanese Journal of Sarcoidosis and  
Other Granulomatous Disorders

第38巻 サプリメント号 2018年

第38回  
学会総会プログラム



日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会

Japan Society of Sarcoidosis and  
Other Granulomatous Disorders

SARCOIDOSIS

**日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会雑誌**

**第38巻 サプリメント号**

**第38回学会総会プログラム**

# 開催にあたって

## テーマ『肉芽腫性疾患とクロストーク機構』

第38回日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会総会

会長 本間 栄 東邦大学大学院医学研究科  
呼吸器内科学講座 教授

この度、第38回日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会総会の会長を拝命し、平成30年11月2日(金曜日)、3日(土曜日)の2日間、品川プリンスホテル・メインタワーの2会場にて開催致します。

本学会は、サルコイドーシスの診断・治療に携わる種々の診療科が参加するところが大きな特徴の一つです。総会においては、発症頻度が高い肺病変を扱う呼吸器内科医と、予後を規定する心病変を扱う循環器内科医の関心が高く、参加者の過半数を占めています。その他にも眼科医、皮膚科医、神経内科医、放射線科医、病理医も参加し毎年活発な発表・討論が行われ、多科の医師が一同に会する数少ない貴重な情報交換の場として活用されています。

今回は各領域における肉芽腫性疾患のトピックスとして、4つのシンポジウム

- 1) 学会のテーマでもある感染と肉芽腫性疾患のクロストーク
- 2) 各臓器における難治性サルコイドーシスの治療
- 3) 心サルコイドーシスにおける FDG-PET の有用性と限界
- 4) 厚労省難治性血管炎班との合同企画で ANCA 関連血管炎

を取り上げ、その病因・病態・診断・治療についての知見を深めるシンポジウムを企画いたしました。また、次世代を担う若い医師達への積極的な参加を促したいと考え、従来の YIA の他に一般演題の中から優秀演題賞を設定いたしました。演題数は YIA 審査対象演題17、一般演題43と多くの演題登録を頂き、さらに特別講演1演題・教育講演7演題・セミナー5演題と基礎から臨床領域に幅広く渡り、教育関連講演プログラムの充実を計りました。

全国からの皆様が参加し易い様に、祝日も絡めて品川という好立地で開催しますので有意義な魅力ある総会となりますよう積極的なご参加と活発な御討論を何卒宜しくお願い申し上げます。

平成30年10月吉日

# 第38回日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会総会

## 「肉芽腫性疾患とクロストーク機構」

会 長：本間 栄（東邦大学大学院医学研究科 呼吸器内科学講座）

会 期：2018年11月2日（金）・3日（土）

事務局：〒143-8541 東京都大田区大森西6-11-1  
東邦大学大学院医学研究科 呼吸器内科学講座  
TEL：03-3762-4151 FAX：03-3766-3551  
E-mail：sar38.resp@ext.toho-u.ac.jp

会 場：品川プリンスホテル メインタワー 17F・15F  
〒108-8611 東京都港区高輪4-10-30  
TEL：03-3440-1111

---

### 編集委員会

日 時：平成30年11月1日（木）13:00～13:30

場 所：品川プリンスホテル メインタワー 3F りんどう・しゃくなげ・ラベンダー

### 将来計画委員会

日 時：平成30年11月1日（木）13:35～14:00

場 所：品川プリンスホテル メインタワー 3F りんどう・しゃくなげ・ラベンダー

### 2019WASOG プログラム委員会

日 時：平成30年11月1日（木）14:05～14:50

場 所：品川プリンスホテル メインタワー 3F りんどう・しゃくなげ・ラベンダー

### 診療の手引き作成委員会

日 時：平成30年11月1日（木）15:00～15:45

場 所：品川プリンスホテル メインタワー 3F りんどう・しゃくなげ・ラベンダー

### 理 事 会

日 時：平成30年11月1日（木）16:00～18:00

場 所：品川プリンスホテル メインタワー 3F しゃくなげ・ラベンダー

### 懇 親 会

日 時：平成30年11月2日（金）19:00～20:30

場 所：品川プリンスホテル メインタワー 12F シルバー12

### 評議員会・総会

日 時：平成30年11月2日（金）13:20～14:00

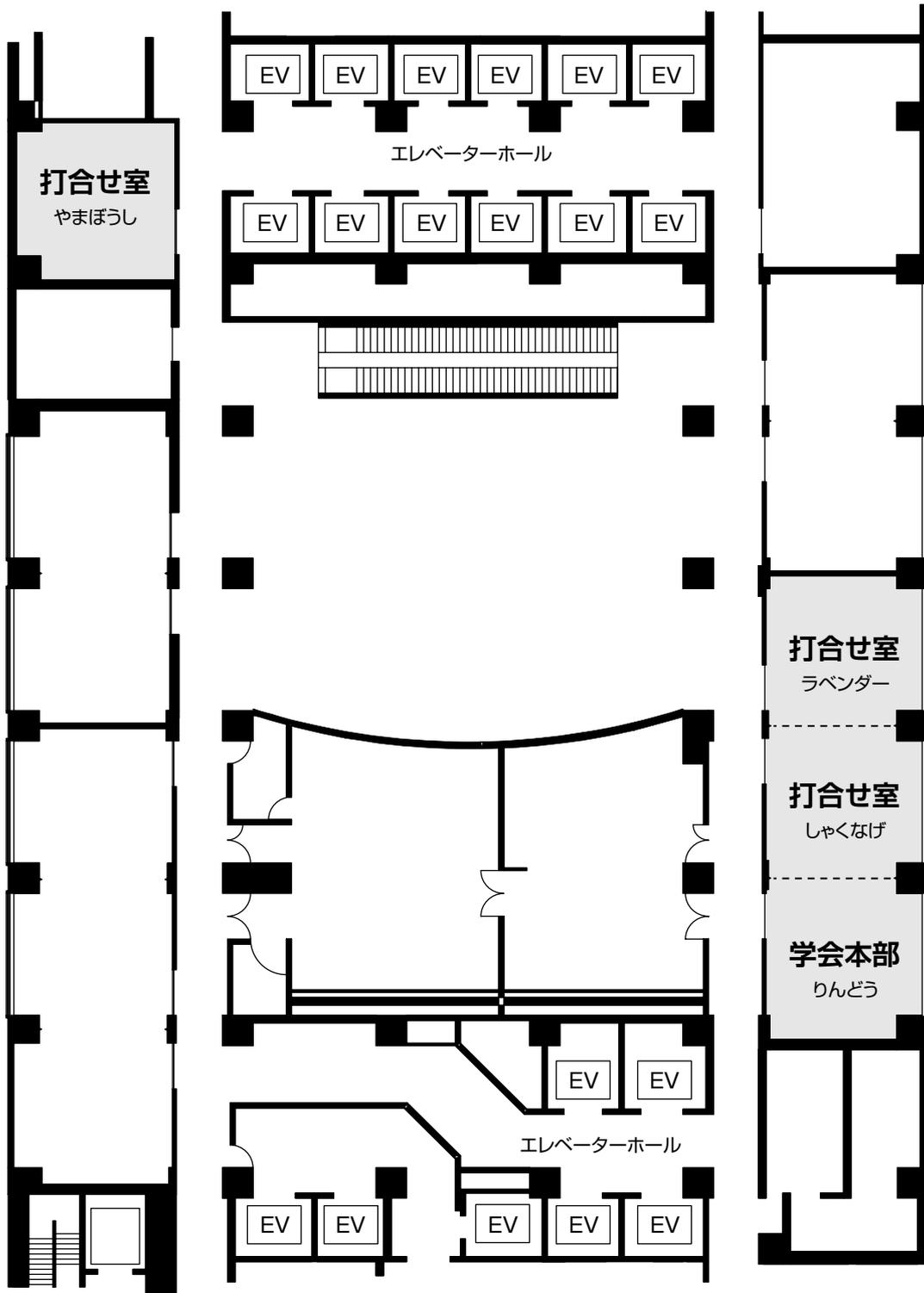
場 所：品川プリンスホテル メインタワー 17F オパール17



# 会場のご案内

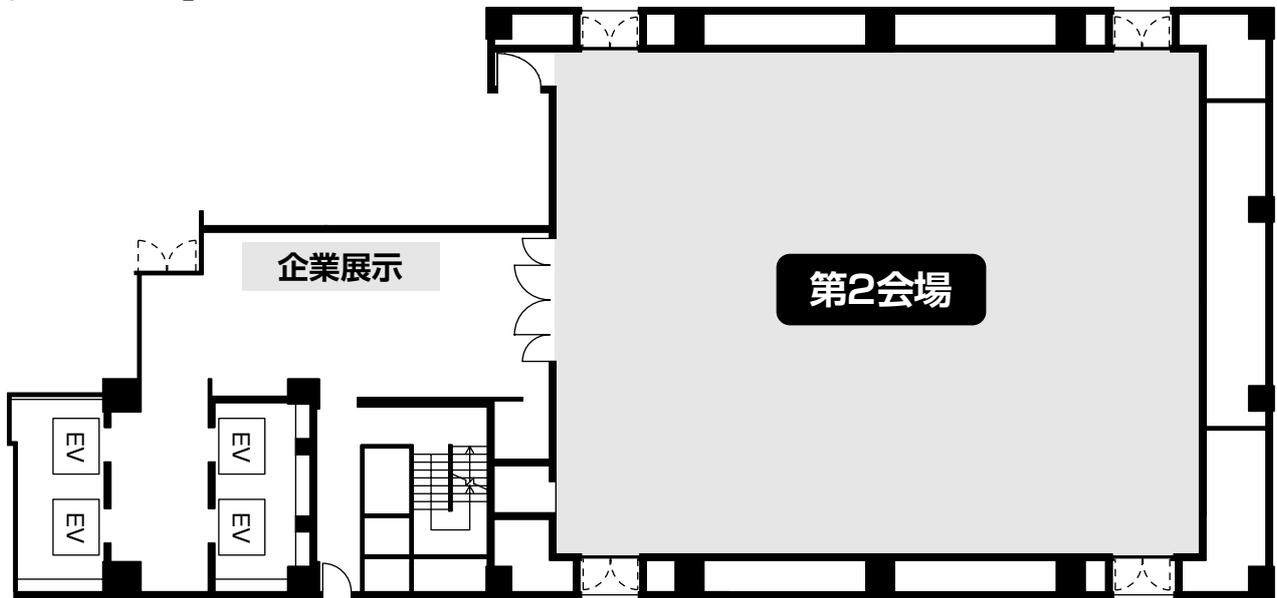
品川プリンスホテル  
メインタワー

3F



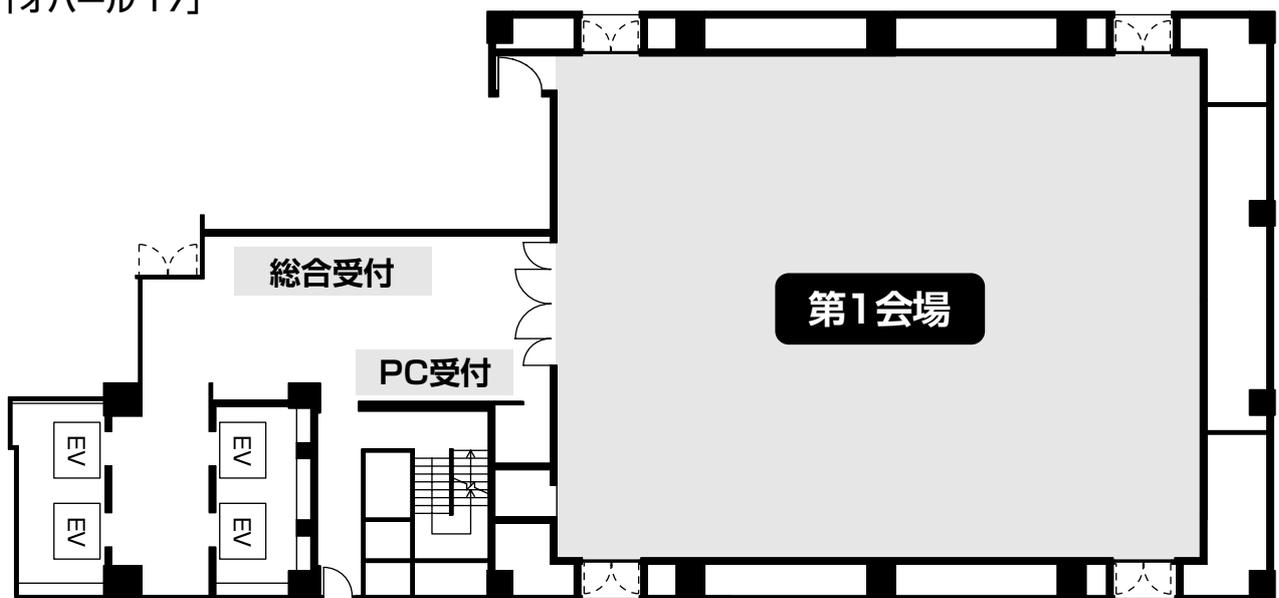
品川プリンスホテル  
メインタワー  
「トパーズ 15」

15F



品川プリンスホテル  
メインタワー  
「オパール 17」

17F



## 参加者・演者・座長の方々へのご案内

### 【参加申込】

1. 学会の開場時間は8:00となっております。
2. 参加費は一人13,000円です。受付にて参加証とお引き換えください。会場に出入りの際は必ず参加証の着用をお願いします。参加者は11月2日の会員懇親会に出席することができます。  
また、今年度会費未納の方は忘れずに受付にてお支払いください。
3. 会場内での発言は座長の指示に従ってください。
4. 質疑応答は簡潔をお願いします。
5. 会長の許可なく会場内での指示、印刷物の配布、その他諸活動は禁止します。

### 【利益相反、YIA について】

#### ■ 発表演題に関する利益相反 (COI) の開示について

第38回日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会総会では筆頭演者の利益相反申告が必要です。また、利益相反の有無にかかわらず総会発表時にはその開示を行う必要があります。掲示するスライドは申告書見本に準じ作成し、スライドの一枚目に開示を行ってください。COI 申告は登録時の前年(暦年：2017年1月～12月)の内容でご記入ください。

#### ■ Young Investigator's Award (YIA) について

YIA は応募のあった対象演題の中から口演発表後、選考いたします。  
YIA 表彰式は3日(土)16:50に行います。

#### ■ 一般演題の優秀演題賞について

一般演題の中から口演発表後、選考いたします。  
優秀演題表彰式は3日(土)16:30に行います。

### 【一般演題：口演】

#### ■ 演者の方へ

1. 演題の発表はすべてPCにて行います。
2. YIA 選考対象演題は発表7分、討論3分です。  
その他の一般演題は発表7分、討論2分。  
症例報告は発表5分、討論2分です。
3. 演者は発表の15分前までに会場の次演者席にお着きください。
4. ご発表データの受付は、原則としてUSBフラッシュメモリとさせていただきます。  
※バックアップ用のCD-Rもご持参いただくことをお勧めいたします。

## ■ご発表用データ作成上の留意点

### • USB メモリまたは CD-R でのデータ持ち込みによるご発表

- ①事務局用意の PC は OS が Windows10、プレゼンテーションソフトは PowerPoint2013、2016 です。
- ②メディアを持ち込む場合は、Windows 版 PowerPoint2010～2016 で作成されたデータのみといたします (PowerPoint に標準で搭載されているフォントをご使用ください)。
- ③Mac OS 版の PowerPoint データは Windows 上での位置ずれや文字化けなどの不具合が生じることが多いため、そのままのデータは不可とさせていただきます。各自、Windows 上での動作確認と Windows 用にデータ変換を行った上でのご用意をお願いします。
- ④動画 (movie file) がある場合には、各自の PC を持ち込んでの発表をお願いします。
- ⑤Mac OS でのご発表をご希望の方には、各自の PC を持ち込んでの発表をお願いします。
- ⑥液晶プロジェクターの出力解像度は、XGA (1024 × 768) に対応しております。

### • PC 持ち込みによるご発表

- ①液晶プロジェクターとの接続は、PC 本体にミニ D-sub15 ピン外部出力コネクタが使えるものに限ります。薄型 PC では特殊なコネクタ形状になっているものもありますので、必ず付属の変換アダプターを予めご確認の上ご用意をお願いします。尚、出力解像度は XGA (1024 × 768) での対応になります。
- ②発表中又はその準備中にバッテリー切れになることがありますので、発表には付属の AC アダプターをご用意ください。
- ③発表中にスクリーンセ이버や省電力機能で電源が切れないように、設定の確認をお願いします。

### • データ及び PC の受付・その他

- ①事務局で用意しますキーボード、マウスを使用し、発表者ご自身で操作してください。
- ②PowerPoint にて作成したデータのファイル名は「演題番号氏.ppt (.pptx)」で保存してください。
- ③データ保存する前に必ずウイルスのチェックを行ってください。
- ④各ご発表の 30 分前までに PC 受付にて、演題受付及び動作確認をしてください (なるべく受付時間よりも早めをお願いします)。

## ■座長の方へ

- ①ご担当セッション開始 20 分前までに次座長席にお着きください。
- ②演題の討論時間は YIA 選考対象 3 分、その他 2 分となっていますが、持ち時間を活用し活発な質疑応答ができるよう進行をお願いします。
- ③プログラムが極めてタイトです。時間厳守をお願いします。

# 日程表

11月2日(金) 第1日目 品川プリンスホテル メインタワー

第1会場 (オパール17)		第2会場 (トパーズ15)	
8:30	8:30～ 開 場 8:45～8:50 開会挨拶 会長:本間 栄		
9:00	8:50～10:10 <b>YIA 審査対象演題 1</b> YIA-01～YIA-08 座長:稲瀬 直彦、寺崎 文生		座長:森本 紳一郎、矢崎 善一 コメンテータ:寺崎 文生、井出 友美
10:00	10:20～12:00 <b>シンポジウム 1</b> 心臓サルコイドーシス診療におけるFDG-PETの有用性と限界 S1-1 基調講演:FDG-PET検査の心臓サルコイドーシス診療における位置づけ 演者:宮川 正男 S1-2 循環器内科医からみた心臓サルコイドーシスにおける <sup>18</sup> F-FDG PETの有用性と限界 演者:矢崎 善一 S1-3 心臓サルコイドーシス診療におけるFDG-PETによる活動性評価をガイドした免疫抑制療法戦略の限界 演者:永井 利幸 S1-4 心臓サルコイドーシス診療における、FDG-PET/CTの有用性・限界とMRIとの比較 演者:河合 秀樹 S1-5 追加発言:心臓サルコイドーシスにおける活動性炎症評価としてのフオトスタチン受容体シンチグラフィの可能性 演者:粟屋 徹	9:50～11:10 <b>一般口演 1</b> OP-01～OP-11 座長:岸 一馬、一色 琢磨	
11:00		11:20～12:00 <b>教育講演 2</b> 悪性腫瘍とサルコイドーシス 座長:鈴木 榮一 演者:渡辺 憲太郎	
12:00	12:10～13:10 <b>ランチョンセミナー 1</b> 特発性肺線維症 (IPF) 急性増悪の新たな治療戦略 座長:本間 栄 演者:海老名 雅仁 共催:日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社	12:10～13:10 <b>ランチョンセミナー 2</b> 免疫チェックポイント阻害剤の使いどころ 座長:山田 嘉仁 演者:鍛持 広知 共催:小野薬品工業株式会社	
13:00	13:20～14:00 <b>評議員会・総会</b>		
14:00	14:30～15:10 <b>教育講演 1</b> 2型自然リンパ球と呼吸器疾患 座長:貫和 敏博 演者:茂呂 和世	14:10～15:30 <b>一般口演 2</b> OP-12～OP-22 座長:小倉 高志、坂本 晋	
15:00	15:20～17:00 <b>シンポジウム 2</b> 感染と肉芽腫性疾患のクロストーク 座長:江石 義信、迎 寛 S2-1 肺非結核性抗酸菌症の多彩な臨床・病理像 -肉芽腫形成の視点から- 演者:藤田 次郎 S2-2 肺NTM症の環境・宿主因子・・・臨床疫学研究から見えてきたもの 演者:森本 耕三 S2-3 非結核性抗酸菌症の難治化メカニズム-TR視点からの考察- 演者:舘田 一博 S2-4 アクネ菌病因論で理解するサルコイドーシス学 演者:山口 哲生	15:40～16:20 <b>教育講演 3</b> 膠原病とサルコイドーシス 座長:須田 隆文 演者:富岡 洋海	
16:00		16:20～17:50 <b>YIA 審査対象演題 2</b> YIA-09～YIA-17 座長:井上 義一、諸井 雅男	
17:00			
18:00		18:00～18:40 <b>教育講演 4</b> 心不全における心臓再同期療法(CRT)治療の意義 座長:矢崎 善一 演者:草野 研吾	
19:00	19:00～20:30 <b>会員懇親会</b> 会場:シルバー12(メインタワー12F)		

# 11月3日(土) 第2日目 品川プリンスホテル メインタワー

第1会場 (オパール17)		第2会場 (トパーズ15)	
8:00	8:00～ <b>開 場</b>		
	8:10～8:50 <b>モーニングセミナー</b> 「One airway, one disease」からみた喘息治療の最近の話題 ～新規抗ヒスタミン薬ピラスチンの位置づけ～ 座長：坂東 政司 演者：本間 哲也 共催：大鵬薬品工業株式会社		
9:00	9:00～9:40 <b>特別報告</b> <b>疾患の病因をモノクローナル抗体で探る</b> 座長：泉 孝英 演者：江石 義信		
10:00	9:50～11:30 <b>シンポジウム 3</b> ANCA関連血管炎に関する厚生労働省難治性血管炎に関する調査研究班 との合同シンポジウム—ANCA 関連血管炎診療の進歩—肺病変を中心に— 座長：坂東 政司、針谷 正祥 <b>S3-1</b> オーバービュー：ANCA 関連血管炎診療の進歩 —肺病変を中心に— 演者：有村 義宏 <b>S3-2</b> ANCA 関連血管炎の肺病変の画像診断 演者：黒崎 敦子 <b>S3-3</b> ANCA 関連血管炎の肺病理診断 演者：武村 民子 <b>S3-4</b> 顕微鏡的多発血管炎における間質性肺炎 演者：本間 栄 <b>S3-5</b> EGPA における気道炎症の特徴と治療法の進歩 演者：谷口 正実	9:40～11:00 <b>一般口演 3</b> <b>OP-23～OP-33</b> 座長：森本 紳一郎、須田 隆文	
11:00		11:10～11:50 <b>教育講演 6</b> <b>サルコイドーシスにおける MAIT 細胞と 自然リンパ球の動態</b> 座長：半田 知宏 演者：山口 悦郎	
12:00	12:00～13:00 <b>ランチョンセミナー 3</b> <b>EGFR 遺伝子変異陽性肺癌に対する 薬物治療の現状</b> 座長：工藤 翔二 演者：細見 幸生 共催：アストラゼネカ株式会社	12:00～13:00 <b>ランチョンセミナー 4</b> <b>肺癌薬物療法における免疫チェックポイント 阻害薬の役割 (免疫チェックポイント阻害薬に よるサルコイド様反応を含めて)</b> 座長：菅 守隆 演者：磯部 和順 共催：中外製薬株式会社	
13:00	13:10～13:40 <b>平成30年度「千葉保之・本間日臣記念賞」受賞講演</b> <b>疫学的・臨床的解析に基づくサルコイドーシスの病態と病因の提唱</b> 座長：杉山 幸比古 演者：澤幡 美千瑠		
14:00	13:50～14:30 <b>教育講演 5</b> <b>肺サルコイドーシスの画像所見</b> —アクネ菌病因論からその成立機序を考える— 座長：四十坊 典晴 演者：山口 哲生	14:00～15:30 <b>一般口演 4</b> <b>OP-34～OP-43</b> 座長：矢崎 善一、滝澤 始	
15:00	14:40～16:20 <b>シンポジウム 4</b> <b>各臓器における (眼、肺、心、皮膚、神経) 難治性サルコイドーシスに対する治療</b> 座長：吾妻 安良太、長井 苑子 <b>S4-1</b> 難治性ぶどう膜炎に対する TNF 阻害薬の使用状況 演者：石原 麻美 <b>S4-2</b> 難治性肺サルコイドーシスに対する治療戦略 演者：今野 哲 <b>S4-3</b> 心病変による不整脈や心不全に対する最新治療 演者：諸井 雅男 <b>S4-4</b> サルコイドーシスの皮膚病変に対する治療の現状 演者：岡本 祐之 <b>S4-5</b> 脳神経内科領域における難治性サルコイドーシスの治療 演者：西山 和利		
16:00		15:40～16:20 <b>教育講演 7</b> <b>心臓サルコイドーシス up to date</b> 座長：磯部 光章 演者：寺崎 文生	
	16:30～16:50 <b>一般演題表彰式</b>		
	16:50～17:00 <b>YIA 表彰式</b>		
17:00	17:00～17:10 <b>閉会挨拶</b> 会長：本間 栄		

# 第38日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会総会 プログラム

会場：品川プリンスホテル メインタワー 17F・15F

11月2日(金) 第1日目

第1会場(オパール17)

8:45～8:50 **開会挨拶** 会長：本間 栄(東邦大学大学院医学研究科 呼吸器内科学講座)

8:50～10:10 **YIA 審査対象演題1**

座長：稲瀬 直彦(平塚共済病院 呼吸器科)  
寺崎 文生(大阪医科大学 医学教育センター・循環器内科)

- |               |  |       |
|---------------|--|-------|
| <b>YIA-01</b> | 心臓サルコイドーシス患者において心筋血流イメージング位相解析は心事故を予測する<br>北海道大学大学院 医学研究科 循環病態内科学講座                      | 小梁川和宏 |
| <b>YIA-02</b> | 心サルコイドーシス合併例の心臓手術の経験<br>群馬県立心臓血管センター 心臓血管外科  | 森下 寛之 |
| <b>YIA-03</b> | 眼サルコイドーシスの診断における各種検査の有用性検証<br>北海道大学大学院医学研究院 眼科学教室  | 鈴木 佳代 |
| <b>YIA-04</b> | サルコイドーシスにおける Matrix Metalloproteinase 7 (MMP-7) のバイオマーカーとしての有用性<br>東邦大学大学院医学研究科 呼吸器内科学講座 | 一色 琢磨 |
| <b>YIA-05</b> | エクソソームの次世代プロテオミクスが解き明かすサルコイドーシスの新規バイオマーカー<br>大阪大学大学院 医学系研究科 呼吸器・免疫内科学                    | 二見 悠  |
| <b>YIA-06</b> | サルコイドーシス患者の血清カテプシン S 濃度と臓器病変との関連<br>愛知医科大学 医学部 内科学講座 呼吸器・アレルギー内科                         | 米澤 利幸 |
| <b>YIA-07</b> | 肺サルコイドーシス患者における血清および気管支肺胞洗浄液中 NGAL 値の検討<br>浜松医科大学 第二内科                                   | 幸田 敬悟 |
| <b>YIA-08</b> | 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症(EGPA)の診断における経気管支肺生検の有用性の検討<br>独立行政法人国立病院機構相模原病院                           | 劉 楷   |

座長：森本 紳一郎（藤田医科大学 循環器内科）  
矢崎 善一（佐久総合病院佐久医療センター 循環器内科）

[ 心臓サルコイドーシス診療における FDG-PET の有用性と限界 ]

- S1-1** 基調講演：FDG-PET 検査の心臓サルコイドーシス診療における位置づけ  
愛媛大学医学部附属病院 放射線科・PET センター 宮川 正男
- S1-2** 循環器内科医からみた心臓サルコイドーシスにおける<sup>18</sup>F-FDG PET の有用性と限界  
佐久総合病院佐久医療センター 循環器内科 矢崎 善一
- S1-3** 心臓サルコイドーシス診療における FDG-PET による活動性評価をガイドとした  
免疫抑制療法戦略の限界  
北海道大学大学院 医学研究院 循環病態内科学 永井 利幸
- S1-4** 心臓サルコイドーシス診療における、FDG-PET/CT の有用性・限界と  
MRI との比較  
藤田医科大学 循環器内科 河合 秀樹
- S1-5** 追加発言：心臓サルコイドーシスにおける活動性炎症評価としての  
ソマトスタチン受容体シンチグラフィーの可能性  
国立国際医療研究センター病院 循環器内科 栗屋 徹

座長：本間 栄（東邦大学大学院医学研究科 呼吸器内科学講座）

特発性肺線維症（IPF）急性増悪の新たな治療戦略

海老名 雅仁（東北医科薬科大学医学部 内科学第一（呼吸器内科））

共催：日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社

座長：貫和 敏博（東北大学 名誉教授）

2型自然リンパ球と呼吸器疾患

茂呂 和世（理化学研究所生命医科学研究センター 自然免疫システム研究チーム）

[ 感染と肉芽腫性疾患のクロストーク ]

**S2-1** 肺非結核性抗酸菌症の多彩な臨床・病理像  
—肉芽腫形成の視点から—

琉球大学大学院 感染症・呼吸器・消化器内科(第一内科)  
琉球大学医学部附属病院

藤田 次郎

**S2-2** 肺 NTM 症の環境・宿主因子・臨床疫学研究から見えてきたもの

公益財団法人結核予防会複十字病院 呼吸器センター・臨床医学研究科

森本 耕三

**S2-3** 非結核性抗酸菌症の難治化メカニズム —TR 視点からの考察—

東邦大学医学部 微生物・感染症学講座

館田 一博

**S2-4** アクネ菌病因論で理解するサルコイドーシス学

東京医科歯科大学 人体病理学、新宿海上ビル診療所

山口 哲生

## 第2会場(トパーズ15)

9:50~11:10 一般口演1 (\*:症例報告)

座長:岸 一馬(虎の門病院 呼吸器センター内科)

一色 琢磨(東邦大学大学院医学研究科 呼吸器内科学講座)

- |               |   |       |
|---------------|---|-------|
| <b>OP-01</b>  | <b>低用量でステロイド導入した肺サルコイドーシス症の検討</b><br>北海道大学大学院医学研究院・医学院 呼吸器内科学教室                   | 木村 孔一 |
| <b>OP-02*</b> | <b>多彩な自己免疫疾患を合併したサルコイドーシスの一例</b><br>KKR 高松病院 呼吸器内科                                | 市川 裕久 |
| <b>OP-03*</b> | <b>サルコイドーシスとクローン病の合併と考えられた1例</b><br>長崎大学病院 呼吸器内科                                  | 坂本 憲穂 |
| <b>OP-04*</b> | <b>サルコイドーシス合併自己免疫性肺胞蛋白症</b><br>国立病院機構 近畿中央呼吸器センター                                 | 新井 徹  |
| <b>OP-05*</b> | <b>サルコイドーシスとIgG4関連疾患の合併と考えられた1例</b><br>京都大学 医学部附属病院 呼吸器内科                         | 増尾 優輝 |
| <b>OP-06*</b> | <b>手術より35年後に診断に至ったIgG4関連後腹膜線維症の1例</b><br>北海道大学大学院医学研究院 呼吸器内科学教室                   | 今野 哲  |
| <b>OP-07*</b> | <b>治療経過中発症した副鼻腔炎の鑑別を要した中耳炎先行の<br/>多発血管炎性肉芽腫症の一例</b><br>富山大学附属病院 第一内科              | 木戸 敏喜 |
| <b>OP-08*</b> | <b>治療経過中に出現した肺野肉芽腫性病変で診断が確定した<br/>多発血管炎性肉芽腫症の1例</b><br>福島県立医科大学 医学部 呼吸器内科         | 二階堂雄文 |
| <b>OP-09*</b> | <b>前立腺病変を伴った多発血管炎性肉芽腫症の1例</b><br>福島県立医科大学 呼吸器内科                                   | 佐藤 佑樹 |
| <b>OP-10*</b> | <b>検診で発見され、黄色ブドウ球菌感染との関連も示唆された<br/>限局型肉芽腫性多発性血管炎の1例</b><br>神戸市立医療センター 西市民病院 呼吸器内科 | 和田 学政 |
| <b>OP-11*</b> | <b>鳥関連過敏性肺炎の発症後に夏型過敏性肺炎の併発が疑われた1例</b><br>神戸市立医療センター 西市民病院 呼吸器内科                   | 山添 正敏 |

## 悪性腫瘍とサルコイドーシス

渡辺 憲太郎（福岡大学医学部 総合医学研究センター）

## 免疫チェックポイント阻害剤の使いどころ

釧持 広知（静岡県立静岡がんセンター 呼吸器内科）

共催：小野薬品工業株式会社

### OP-12\* 抗IgE抗体オマリズマブ継続使用中にサルコイドーシスを発症したアスピリン喘息の1例

国立病院機構 相模原病院 臨床研究センター

林 浩昭

### OP-13\* サルコイドーシスに合併した気管支内アスペルギルス菌球症の1例

自治医科大学 内科学講座 呼吸器内科学部門

水品 佳子

### OP-14\* 41年間の長期経過を観察しえた肺高血圧合併サルコイドーシスの1剖検例

日本赤十字社医療センター 呼吸器内科

猪俣 稔

### OP-15\* 肉芽種性血管炎が認められ多彩な神経症状を呈した神経サルコイドーシスの一例

聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院 呼吸器内科

鶴岡 一

### OP-16\* 空洞を伴う多発肺結節影を認めた若年発症サルコイドーシスの1例

福岡大学筑紫病院

竹田 悟志

### OP-17\* 肺線維化を合併し急性増悪を起こした肺サルコイドーシスの一例

国家公務員共済組合連合会 虎の門病院 呼吸器センター内科

中濱 洋

### OP-18\* 胸髄硬膜の肥厚性硬膜炎を生じた神経サルコイドーシスの1例

村上記念病院

森 公介

- OP-19\*** 汎下垂体機能低下症を伴い自然軽快した急性サルコイドーシスの一例  
福島県立医科大学 呼吸器内科 河俣 貴也
- OP-20\*** 食道静脈瘤破裂を来した肝病変合併サルコイドーシスの一例  
東北大学大学院 医学系研究科 呼吸器内科学分野 有竹 秀美
- OP-21\*** 興味深い病態が示唆されたミオパチー型筋サルコイドーシスの2例  
東北大学大学院医学系研究科 呼吸器内科学分野 村上 康司
- OP-22\*** サルコイドーシス発症30年後に全身の筋・関節に病変をきたした一例  
九州大学大学院 胸部疾患研究施設 濱田 直樹

15:40~16:20 **教育講演3**

座長：須田 隆文（浜松医科大学 第二内科）

**膠原病とサルコイドーシス**

富岡 洋海（神戸市立医療センター西市民病院 呼吸器内科）

16:20~17:50 **YIA 審査対象演題2**

座長：井上 義一（国立病院機構 近畿中央呼吸器センター）  
諸井 雅男（東邦大学医学部 内科学講座 循環器内科学分野（大橋））

- YIA-09** サルコイドーシスにおける経気管支的肺生検（TBLB）診断症例の検討  
大分大学 医学部 呼吸器・感染症内科学講座 渡邊絵里奈
- YIA-10** サルコイドーシスにおける MAIT 細胞の役割の解明  
東邦大学大学院医学研究科 呼吸器内科学講座 松山 尚世
- YIA-11** 心臓限局性サルコイドーシスの臨床像  
—全国アンケート2015からの検討—  
国立循環器病研究センター 心臓血管内科 寺崎 智志
- YIA-12** 心臓サルコイドーシスにおける<sup>18</sup>F-FDG PETでの右室自由壁集積は  
心内膜下心筋生検陽性率と関連する  
北海道大学大学院医学研究院 循環病態内科学 表 和徳
- YIA-13** 抗原回避試験はステロイド治療が導入された慢性過敏性肺炎の  
予後予測に有用である  
東京医科歯科大学 呼吸器内科 榛沢 理

- YIA-14** 当院で外科的肺生検後に診断した慢性過敏性肺炎の診断の妥当性と治療による予後の検討  
濟生会熊本病院 保田 祐子
- YIA-15** 外科的肺生検で診断した慢性過敏性肺炎の特徴と Delphi 法を用いた分類基準の有用性の検討  
公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科 武井玲生仁
- YIA-16** 肺移植を行った慢性過敏性肺炎に関する検討  
京都大学医学部附属病院 呼吸器内科 池上 直弥
- YIA-17** 本院における肺非結核性抗酸菌症のリスク因子保有率の検討  
自治医科大学 内科学講座 呼吸器内科学部門 亀井 亮平

18:00～18:40 **教育講演 4**

---

座長：矢崎 善一（佐久総合病院佐久医療センター 循環器内科）

**心不全における心臓再同期療法（CRT）治療の意義**

草野 研吾（国立循環器病研究センター 心臓血管内科）



## EGFR 遺伝子変異陽性肺癌に対する薬物治療の現状

細見 幸生（がん感染症センター都立駒込病院 呼吸器内科）

共催：アストラゼネカ株式会社

13:10～13:40 平成30年度「千葉保之・本間日臣記念賞」受賞講演

座長：杉山 幸比古（練馬光が丘病院 呼吸器内科）

## 疫学的・臨床的解析に基づくサルコイドーシスの病態と病因の提唱

澤幡 美千瑠（自治医科大学 内科学講座 呼吸器内科学部門）

13:50～14:30 教育講演5

座長：四十坊 典晴（JR札幌病院 呼吸器内科）

## 肺サルコイドーシスの画像所見 —アクネ菌病因論からその成立機序を考える—

山口 哲生（新宿海上ビル診療所）

14:40～16:20 シンポジウム4

座長：吾妻 安良太（日本医科大学武蔵小杉病院 呼吸器内科）

長井 苑子（京都健康管理研究会 中央診療所）

### 〔各臓器における（眼、肺、心、皮膚、神経） 難治性サルコイドーシスに対する治療〕

#### S4-1 難治性ぶどう膜炎に対する TNF 阻害薬の使用状況

横浜市立大学大学院医学研究科 眼科

石原 麻美

#### S4-2 難治性肺サルコイドーシスに対する治療戦略

北海道大学大学院 医学研究院 呼吸器内科学教室

今野 哲

#### S4-3 心病変による不整脈や心不全に対する最新治療

東邦大学医学部 内科学講座 循環器内科学分野（大橋）

諸井 雅男

#### S4-4 サルコイドーシスの皮膚病変に対する治療の現況

関西医科大学 皮膚科

岡本 裕之

## S4-5 脳神経内科領域における難治性サルコイドーシスの治療

北里大学医学部 脳神経内科学

西山 和利

---

16:30～16:50 一般演題表彰式

---

16:50～17:00 YIA 表彰式

---

17:00～17:10 閉会挨拶

会長：本間 栄（東邦大学大学院医学研究科 呼吸器内科学講座）

## 第2会場(トパーズ15)

9:40~11:00 一般口演3 (\*:症例報告)

座長: 森本 紳一郎(藤田医科大学 循環器内科)  
須田 隆文(浜松医科大学 第二内科)

- OP-23\*** ステロイド抵抗性の中葉無気肺を形成し、PAB 抗体陽性により診断がついたサルコイドーシスの一例  
伊勢赤十字病院 呼吸器内科 笹野 元
- OP-24\*** 初期に脳腫瘍が疑われ病理で類上皮細胞肉芽腫が判明した2例  
鹿児島大学病院 脳神経内科 崎山 佑介
- OP-25\*** 掌蹠膿疱症性骨関節炎の治療中に生じた鎖骨病的骨折部位より *Propionibacterium acnes* を検出した1例  
高知大学医学部附属病院 内分泌代謝・腎臓膠原病内科 西川 浩文
- OP-26\*** 短期間の静注抗菌薬から経口抗菌薬に変更しても、良好な治療経過をたどった *M. massiliense* 症の3例  
北海道大学大学院 医学研究院 呼吸器内科学分野 松本 宗大
- OP-27\*** モノクローナル抗体(PAB 抗体陰性 TB1 抗体陽性)による検討が治療変更にも有用だった肉芽腫性疾患の一例  
手稲溪仁会病院 呼吸器内科 菅谷 文子
- OP-28\*** 膀胱癌に対する BCG 注入療法後の結核発症と鑑別を要したサルコイドーシスの一例  
大分大学 医学部 呼吸器・感染症内科学講座 山末 まり
- OP-29\*** ぶどう膜炎で発症したインターフェロン誘発サルコイドーシス  
横浜市立大学大学院医学研究科 眼科 加藤 愛
- OP-30\*** エタネルセプト皮下注を契機として発症したと考えられるサルコイドーシスの1例  
東邦大学大学院医学研究科 呼吸器内科学講座 鹿子木拓海
- OP-31\*** 心臓限局性サルコイドーシス症例の検討  
大阪医科大学 循環器内科 藤田 修一
- OP-32\*** ステロイド長期投与中に心不全を呈した高齢者心臓サルコイドーシスの3例: 僧帽弁閉鎖不全の重要性  
独立行政法人国立病院機構 まつもと医療センター 循環器内科 関村 紀行
- OP-33\*** 経過観察中に心タンポナーデを発症したサルコイドーシスの一例  
札幌医科大学医学部 循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座 矢野 俊之

## サルコイドーシスにおける MAIT 細胞と自然リンパ球の動態

山口 悦郎(愛知医科大学 呼吸器・アレルギー内科)

## 肺癌薬物療法における免疫チェックポイント阻害薬の役割 (免疫チェックポイント阻害薬によるサルコイド様反応を含めて)

磯部 和順(東邦大学大学院医学研究科 呼吸器内科学講座)

共催：中外製薬株式会社

### OP-34 サルコイドーシスの BAL 液中各種メディエーターの解析 —IgG4 関連吸器疾患との比較—

信州大学 医学部 内科学第一教室

山本 洋

### OP-35 Identification of a novel susceptible gene related to spontaneous remission in sarcoidosis

Department of Ophthalmology and Visual Science,  
Yokohama City University Graduate School of Medicine

Mami Ishihara

### OP-36 サルコイドーシスにおける自己抗体の臨床的意義の検討

産業医科大学 医学部 呼吸器内科学講座

野口 真吾

### OP-37 サルコイドーシスにおける免疫チェックポイント発現の臨床意義

九州大学大学院医学研究院附属 胸部疾患研究施設

鈴木 邦裕

### OP-38 心臓サルコイドーシスにおける FDG-PET ガイド下治療介入研究

名古屋大学大学院医学系研究科 循環器内科学

森本 竜太

### OP-39 心臓サルコイドーシスが疑われる全身性サルコイドーシス症例における 背景因子の検討

名古屋大学大学院医学系研究科 循環器内科学

桑山 輔

- OP-40** 血中エクソソーム由来マイクロ RNA の発現解析による心サルコイドーシスの新規バイオマーカーの探索  
東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 疾患多様性遺伝学 渡邊 亮
- OP-41** 心電図、心エコーによる心サルコイドーシスのスクリーニングは十分か？  
北海道大学大学院医学研究院・医学院 呼吸器内科学教室 大平 洋
- OP-42** 心臓限局性サルコイドーシス疑いの予後  
岡山大学 循環器内科 高谷 陽一
- OP-43** サルコイドーシスにおける臓器非特異的全身症状への対応  
医療法人社団つるかめ会 新宿海上ビル診療所 山口 哲生

15:40～16:20 **教育講演 7**

座長：磯部 光章（日本心臓血圧研究振興会附属 榊原記念病院）

**心臓サルコイドーシス up to date**

寺崎 文生（大阪医科大学医学教育センター 循環器内科）

# 抄 録

特別報告

教育講演1～7

シンポジウム1～4

平成30年度

「千葉保之・本間日臣記念賞」受賞講演

ランチオンセミナー1～4

モーニングセミナー

## 疾患の病因をモノクローナル抗体で探る

江石 義信

東京医科歯科大学 人体病理学

モノクローナル(MC)抗体は、感作免疫動物の脾細胞から持続性の抗体産生株を樹立し、その中から目的とする反応性を呈する株を選別して単クローン化する。通常の選別過程では、目的とする抗原物質との反応株を96穴反応プレート上で大量にスクリーニングするが、ホルマリン固定パラフィン包埋(FFPE)組織での免疫染色を目的とする場合は、さらに組織切片を用いた免疫染色でのスクリーニングが必要となる。今回の講演では、FFPE組織での免疫染色を目的に当研究室で作成されたMC抗体に関してその研究内容を紹介し、本手法で作成された抗体が病因を探る上で有用であることを提示したい。

PAB抗体は、サ症病因を探る一連の研究の中で、特に免疫染色用に開発されたアクネ菌特異的MC抗体である。本抗体を用いた免疫染色でサ症肉芽腫内に陽性像が高率に検出されることから、本菌がサルコイドーシス肉芽腫形成の原因細菌である可能性が高い。現在では本症の組織学的診断にも広く用いられるようになった。

アクネ菌は尿路系常在菌でもあり慢性前立腺炎の原因菌としても知られる。PAL抗体は、前立腺上皮細胞内に持続感染するアクネ菌を検出するために開発された抗体で、アクネ菌陽性腺管率は担癌手術検体で高い。癌陰性生検での菌陽性腺管率は、その後の癌発見症例群で高い。経尿道的に本菌をマウスに感染させると、ヒト同様の腺上皮内感染像を再現できる。感染後3ヶ月時点で既に感染腺管にヒト同様の前癌病変が認められる。

LAM抗体は、抗酸菌(ZN)染色陰性の結核性乾酪壊死部に高率に陽性を呈する抗マイコバクテリア抗体で、結核病変の組織診断に有用である。特に石灰化を伴う乾酪壊死巣は全例ZN染色陰性にも拘わらず全例で陽性となることから、石灰化を伴う陳旧性結核病変が再燃性二次結核の原因となる可能性がある。また、本抗体は非結核性抗酸菌感染症の組織診断にも有用で、PAB抗体と共に肉芽腫疾患の鑑別診断に利用されている。

TMDU抗体は、多数のピロリ菌が培養された胃所属リンパ節の免疫染色で種々の抗ピロリ菌抗体産生株の中から選別された本菌特異的なMC抗体である。胃粘膜においては、腺窩上皮表層の菌体だけでなく、市販の抗体では検出できない粘膜固有層Mφ内および胃底腺壁細胞内の菌体も検出できる。これらの知見は、粘膜侵入性を有しないとされていたピロリ菌が実際には粘膜内に侵入して慢性胃炎を生じていることや、壁細胞分泌細管内に定常棲息する本菌の持続感染が未分化型胃癌の発生に関与する可能性も示唆した。

最後に口腔内常在菌である歯周病菌は、菌種特異的な抗体による免疫染色で炎症部Mφ内や口腔粘膜上皮細胞内にもみられる。本菌は歯周病患者炎症性肉芽の血管内皮細胞内にも観察され血中への移行が示唆される。動脈硬化部位では肥厚した内膜のMφ細胞内に歯周病菌の存在が確認され、現在その因果関係を解析している。

# 抄 録

## 一 般 口 演

症例報告は演題番号に\*が付いています

### 一般演題 選考委員

#### 一般口演1

---

一色 琢磨 (東邦大学大学院医学研究科 呼吸器内科学講座)  
岸 一馬 (虎の門病院 呼吸器センター内科)

#### 一般口演2

---

小倉 高志 (神奈川県立循環器呼吸器病センター 呼吸器科)  
坂本 晋 (東邦大学大学院医学研究科 呼吸器内科学講座)

#### 一般口演3

---

須田 隆文 (浜松医科大学 第二内科)  
森本紳一郎 (藤田医科大学 循環器内科)

#### 一般口演4

---

滝澤 始 (杏林大学医学部付属病院 呼吸器内科)  
矢崎 善一 (佐久総合病院佐久医療センター 循環器内科)

(50音順)

## OP-01 低用量でステロイド導入した肺サルコイドーシス症の検討

○木村 孔一<sup>1)</sup>、今野 哲<sup>1)</sup>、四十坊 典晴<sup>2)</sup>、山田 嘉仁<sup>3)</sup>、山口 哲生<sup>4)</sup>

1) 北海道大学大学院医学研究院・医学院 呼吸器内科学教室、2) JR 札幌病院 呼吸器内科、3) JR 東京総合病院 呼吸器内科、4) 新宿海上ビル診療所 呼吸器科

【背景】肺サルコイドーシス(サ症)の治療指針における導入は、プレドニゾン(PSL)換算で30mg/日相当とされているがそのエビデンスは乏しく、一方でステロイドの低用量投与の是非も明らかではない。

【目的】肺サ症に対して低用量のステロイドで治療開始した症例の特徴を後方視的に検討する。

【方法】2017年9月現在、北海道大学病院、JR 札幌病院、新宿海上ビル診療所に定期通院中の肺サ症患者において、低用量のステロイド(PSL換算10mg/日以下)で治療開始された22症例の臨床的特徴を後方視的に調査した。

【結果】22症例中、男性8名(36.4%)、女性14名(63.6%)であり、発症年齢と治療開始年齢の中央値はそれぞれ35.5歳、43歳であった。ステロイドを離脱できたのは5例(22.7%)であった。また、このうちPSL換算で5mg/日の症例は8例であり、男性3名(37.5%)、女性5名(62.5%)であった。発症年齢と治療開始年齢の中央値はそれぞれ、27.5歳、38歳であり、ステロイドを離脱できたのは3例(37.5%)であった。

【結論】肺サ症においてステロイドを導入する際、治療指針の記載よりも低用量で十分な効果を示す可能性がある。

## OP-02\* 多彩な自己免疫疾患を合併したサルコイドーシスの一例

○市川 裕久、荒川 裕佳子、森 由弘

KKR 高松病院 呼吸器内科

【はじめに】免疫異常を呈するサルコイドーシス(サ症)は、全身諸臓器に病変を来すという臨床像や免疫異常という病態など膠原病と共通性を有し、また、膠原病との合併が多いことが知られている。我々は、多発筋炎、シェーグレン症候群、関節リウマチ、橋本病を合併したサ症の一例を経験した。複数の自己免疫疾患を合併したサ症の報告は稀であり報告する。

【症例】71歳女性。63歳の時に間質性肺炎のため近医に入院。胸腔鏡下肺生検など諸検査にて、多発筋炎、シェーグレン症候群、橋本病と診断され、プレドニゾン、タクロリムスにて治療が開始された。その後、プレドニゾンは漸減中止となり、タクロリ

ムスのみで維持されていたが、69歳の時に飛蚊症を来しブドウ膜炎と診断され、胸部X線で両側肺門部リンパ節腫大を認め、当科に紹介された。経気管支肺生検で非乾酪性肉芽腫を認めサ症と診断した。71歳時に両母指・手・肘関節痛が出現し、膠原病内科に紹介。関節リウマチと診断された。タクロリムスにプレドニゾン、イグラチモドが追加となり加療を継続中である。

【結論】Th1優位の免疫異常が病態に関与している可能性があり文献的考察を交え報告する。

## OP-03\* サルコイドーシスとクローン病の合併と考えられた1例

○坂本 憲穂<sup>1)</sup>、宮村 拓人<sup>1)</sup>、由良 博一<sup>1)</sup>、中島 章太<sup>1)</sup>、石本 裕士<sup>1)</sup>、松島 加代子<sup>2)3)</sup>、黒田 揮志夫<sup>4)</sup>、石松 祐二<sup>5)</sup>、福岡 順也<sup>4)</sup>、迎 寛<sup>1)</sup>

1) 長崎大学病院 呼吸器内科、2) 長崎大学病院 消化器内科、3) 長崎大学病院 医療教育開発センター、4) 長崎大学病院 病理診断科、5) 長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 医療科学専攻 看護学分野

【症例】24歳、男性。

【現病歴】半年前の健診で胸部異常陰影を指摘され、精査目的に当科紹介受診となった。胸部CT所見は、多発するランダムパターン性の結節および粒状影で、リンパ節腫大はなかった。気管支鏡内視鏡所見では、気管・気管支粘膜のネットワークフォーメーションを、気管支肺胞洗浄液ではリンパ球比率が上昇していた。経気管支肺生検で類上皮細胞肉芽腫を認め、サルコイドーシスが疑われた。肺病変は短期間に無治療で改善した。一方で、紹介2か月前から、下痢、発熱も出現していた。上部消化管内視鏡検査では、食道の縦走潰瘍を、大腸内視鏡検査ではバウヒン弁および

横行結腸に縦走潰瘍、地図状潰瘍を認め、生検での非乾酪性類上皮細胞肉芽腫とあわせクローン病と診断された。クローン病に対してメサラジンの投与が行われたが症状改善せず、インフリキシマブの投与が追加され、現在は、下痢症状および内視鏡所見の改善を認めており、肺病変の悪化も認めていない。

【考察】サルコイドーシスとクローン病はいずれも非乾酪性類上皮細胞肉芽腫を形成し、CD4陽性細胞の局所への集積を特徴とする疾患であり、発症機序の面からも興味深い症例と考えられた。

# 日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会一覧

第1回～第6回は研究会

回	年 月 日	場 所	会 長	所 属
1	1981/ 昭和56年 10月 8日 (研究会)	札 幌	平賀 洋明	札幌鉄道病院
2	1982/ 昭和57年 11月 6日 (研究会)	東 京	松井 泰夫	日本赤十字社医療センター
3	1983/ 昭和58年 11月 5日 (研究会)	新 潟	伊藤 慶夫	済生会三条病院
4	1984/ 昭和59年 11月 6日 (研究会)	熊 本	志摩 清	熊本市民病院
5	1985/ 昭和60年 11月 8日 (研究会)	岡 山	木村 郁郎	岡山大学医学部第2内科
6	1986/ 昭和61年 10月 17日 (研究会)	松 本	草間 昌三	信州大学医学部第1内科
7	1987/ 昭和62年 8月 8日	京 都	大島 駿作	京都大学胸部疾患研究所
8	1988/ 昭和63年 11月 11日～12日	東 京	岩井 和郎	結核予防会結核研究所
9	1989/ 平成元年 9月 21日～22日	名古屋	山本 正彦	名古屋市立大学医学部第2内科
10	1990/ 平成2年 11月 16日～17日	福岡	重松 信昭	九州大学医学部胸部疾患研究施設
11	1991/ 平成3年 9月 8日～13日 第12回 WASOG 同時開催	京都 京都	大島 駿作 泉 孝英	京都大学胸部疾患研究所 京都大学胸部疾患研究所
12	1992/ 平成4年 10月 26日～27日	盛岡	田村 昌士	岩手医科大学医学部第3内科
13	1993/ 平成5年 10月 14日～15日	浜松	佐藤 篤彦	浜松医科大学第2内科
14	1994/ 平成6年 10月 20日～21日	広島	山木戸 道郎	広島大学医学部第2内科
15	1995/ 平成7年 10月 5日～6日	宇都宮	北村 諭	自治医科大学呼吸器内科
16	1996/ 平成8年 10月 17日～18日	熊本	安藤 正幸	熊本大学医学部第1内科
17	1997/ 平成9年 9月 9日～10日	札幌	皆川 知紀	北海道大学医学部細菌学
18	1998/ 平成10年 11月 13日～14日	東京	大原 國俊	日本医科大学眼科学
19	1999/ 平成11年 11月 8日～11月 13日 第6回 WASOG 同時開催	熊本	平賀 洋明 安藤 正幸	札幌鉄道病院 熊本大学医学部第1内科
20	2000/ 平成12年 10月 12日～13日	別府	津田 富康	大分医科大学第3内科
21	2001/ 平成13年 10月 18日～19日	東京	折津 愈	日本赤十字社医療センター呼吸器内科
22	2002/ 平成14年 11月 14日～15日	岡山	中田 安成	岡山大学医学部保健学科検査技術科学
23	2003/ 平成15年 11月 28日～29日	東京	工藤 翔二	日本医科大学内科学第4講座
24	2004/ 平成16年 10月 30日～31日	京都	長井 苑子	京都大学医学部附属病院呼吸器内科
25	2005/ 平成17年 10月 20日～21日	札幌	阿部 庄作	札幌医科大学医学部第3内科
26	2006/ 平成18年 10月 6日～7日	東京	四元 秀毅	国立病院機構東京病院
27	2007/ 平成19年 10月 18～20日 第4回 WASOG-Diffuse Lung Diseases Meeting 共催	東京	吉澤 靖之	東京医科歯科大学統合呼吸器病学
28	2008/ 平成20年 11月 7日～8日	仙台	貫和 敏博	東北大学大学院医学系研究科内科病態学講座 呼吸器病態学分野
29	2009/ 平成21年 10月 22日～23日	宇都宮	杉山 幸比古	自治医科大学内科学講座呼吸器内科学部門
30	2010/ 平成22年 10月 1日～2日	浜松	千田 金吾	浜松医科大学第2内科
31	2011/ 平成23年 10月 21日～22日	名古屋	森本 紳一郎	藤田保健衛生大学循環器内科
32	2012/ 平成24年 10月 5日～6日	福岡	渡辺 憲太郎	福岡大学医学部呼吸器内科学
33	2013/ 平成25年 10月 25日～26日	東京	山口 哲生	JR 東京総合病院呼吸器内科
34	2014/ 平成26年 11月 1日～2日	新潟	鈴木 榮一	新潟大学医歯学総合病院
35	2015/ 平成27年 11月 7日～8日	大阪	岡本 祐之	関西医科大学皮膚科
36	2016/ 平成28年 10月 7日～8日	東京	江石 義信	東京医科歯科大学人体病理学
37	2017/ 平成29年 11月 3～4日	名古屋	山口 悦郎	愛知医科大学呼吸器・アレルギー内科
38	2018/ 平成30年 11月 2～3日	東京	本間 栄	東邦大学大学院医学研究科 呼吸器内科学講座
39	2019/ 平成31年 10月 9～11日 WASOG 2019 International Conference on Sarcoidosis and Interstitial Lung Diseases 同時開催	横浜	吾妻 安良太	日本医科大学大学院医学研究科 呼吸器内科学分野

## 協賛団体御芳名（敬称略 50音順）

公益財団法人 京都健康管理研究会 中央診療所

Meiji Seika ファルマ株式会社

MSD 株式会社

アクテリオン ファーマシューティカルズ ジャパン株式会社

旭化成ファーマ株式会社

アステラス製薬株式会社

アストラゼネカ株式会社

小野薬品工業株式会社

オリンパスメディカルサイエンス販売株式会社

杏林製薬株式会社

協和発酵キリン株式会社

塩野義製薬株式会社

第一三共株式会社

大鵬薬品工業株式会社

大日本住友製薬株式会社

中外製薬株式会社

帝人在宅医療株式会社

日本イーライリリー株式会社

日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社

ノバルティスファーマ株式会社

ファイザー株式会社

富士フイルム メディカル株式会社

第38回日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会総会にご協賛いただきまして、  
篤く御礼申し上げます。

2018年10月

第38回日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会総会  
会長 本間 栄

日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会雑誌  
第38回学会総会プログラム  
第38巻 サプリメント号

---

発行日：2018年10月5日

会 長：本間 栄

事務局：東邦大学大学院医学研究科 呼吸器内科学講座  
〒143-8541 東京都大田区大森西6-11-1  
TEL：03-3762-4151 FAX：03-3766-3551  
E-mail：sar38.resp@ext.toho-u.ac.jp

出 版：株式会社セカンド  
〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F  
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025  
<https://secand.jp/>

